

第4次 臼杵市観光振興戦略（素案）

2024年 月

臼杵市産業観光課

目次

1. 戦略策定の背景	2p
2. 主な課題	14p
3. 観光振興戦略とは	16p
4. 将来像	19p
5. 戦略推進に向けた関係者の役割	20p
6. 観光基本戦略及び主な施策展開	21p
7. 戦略の目標	36p
8. 推進体制と戦略の見直し	36p

1 戦略策定の背景

(1) はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、観光を取り巻く状況が一変したなか、第3次臼杵市観光振興戦略において2021年度から2023年度までの3年間について計画が定められ、本市ではその計画に基づいた観光振興施策を実施してきた。

第4次臼杵市観光戦略においては、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法において5類感染症に位置付けられて以降、増加する観光需要に対応し、観光が本市経済及び地域の持続的な発展を牽引すべく、観光事業者や地域住民、旅行者の相互理解による持続可能な観光地づくりを行い、観光産業が本市の基幹産業の一つとなることを目指し、策定する。

(2) 本戦略が対象とする「観光」の範囲

従来の観光地は、その拠り所となる資源のタイプから、自然資源依存型観光地、人文資源依存型観光地に大別される。しかしながら、本市は核となる観光資源である臼杵石仏や臼杵城跡、歴史的な街並みや社寺等の人文資源のほか、海や農村の景観や江戸時代から市民が守ってきた食文化や近代以降に発展した各種の産業などが存在し、市中心部以外にも観光資源の「タネ」となる地域資源が数多く存在することが特徴である。

一方で、宿泊施設が少ないこと、近隣に別府市や由布市等の有名な温泉地があることから、宿泊を伴う観光ではなく、日帰りの観光地になりやすいという側面も併せ持っている。

近年、従来の価値基準による“著名観光資源”を持たない都市や地域、あるいは地域における歴史資源や自然・景勝地等、従来から観光資源とみなされていたもの以外の地区やスポットに域外からの来訪者が訪れるケースが増加傾向にある(例:文化財等に指定されていない、地域の人々が普通に暮らす街並み/ダム、ご当地マンホール等の土木資源/工場、廃墟等の巨大人工構造物/農業景観/工場見学/アニメや映画ゆかりの地など)。

このような消費者動向の変化を踏まえると、本市の観光の対象は、海を望む自然風景や、石仏や城跡、歴史的街並み、資料館などの既存観光資源はもとより、ユネスコに認められた食文化を筆頭に、歴史や風土に培われた文化・伝統、地域の自然と共生しつつ発展してきた地域環境、臼杵市ならではの伝統産業や生業、そこに生活する市民の暮らしなど、有形無形の「生活文化」そのものであるべきと捉えることができる。よって、上述の既存の観光資源(自然資源、人文資源)と共に、都市、地場産業、生活文化習慣、地域の行事などを「生活文化資源」として観光の対象として据えることが求められる。

また、消費者が観光に求める根源的な需要が『非日常の体験』であることは古今東西変わらない。日常生活における行動や習慣、普段目にする景色等との「ギャップ」が『非日常の体験』に不可欠であり、これらが満たされる場合、近距離の移動であっても観光と捉えることができる。

これらの地域の特性並びに旅行者動向に照らし、本戦略が対象とする「観光」は以下の通りとする。

本戦略が対象とする「観光」の範囲

既存の観光資源のみならず、地域の生活文化に培われた様々な魅力を体験することを目的とし、域外から宿泊旅行や日帰りのお出かけ等で本市に人が訪れること。行動の対象は、景勝地・歴史資源の訪問、街並み散策、伝統的なお祭り・イベントの鑑賞のほか、食を含む文化体験や産業体験、工場見学、業務出張の前後や合間の観光、地元の人々との交流等を含むものとし、行動の主体には市外からの来訪者だけでなく、臼杵市民も含まれる。

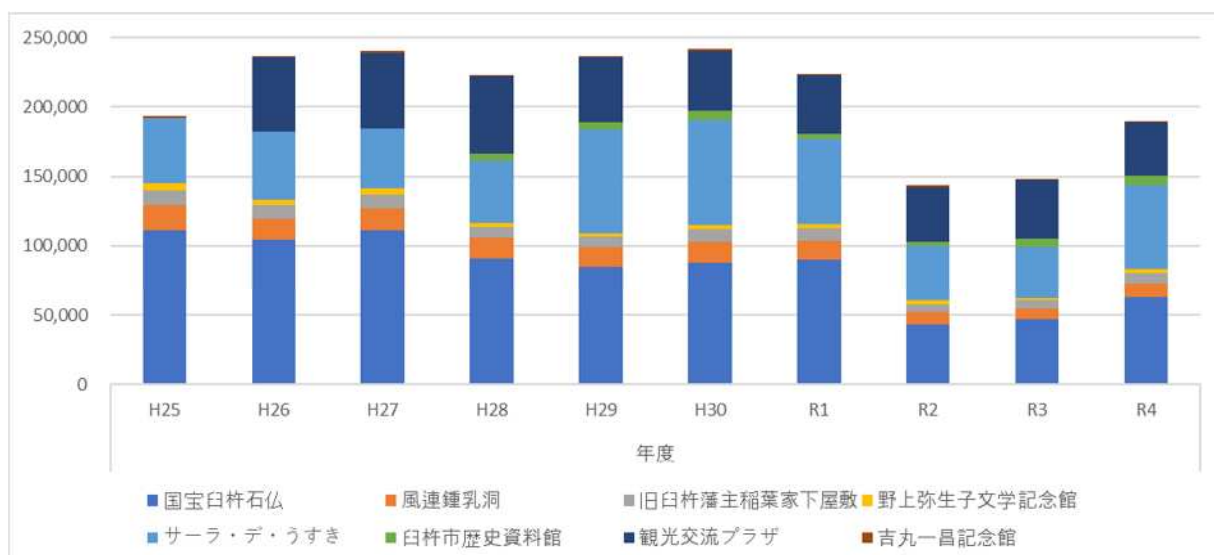
(3) 臼杵観光の現状（データ分析）

① 臼杵市の主要観光施設等における入場者数の推移

(単位：人)

観光施設名	年度									
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
国宝臼杵石仏	111,260	104,534	111,175	91,062	84,997	88,051	90,236	43,062	47,374	62,719
風連鍾乳洞	18,357	14,887	15,553	14,476	14,461	15,049	13,651	9,199	7,423	9,958
旧臼杵藩主稲葉家下屋敷	10,495	9,717	10,240	7,642	6,994	8,724	9,111	5,529	5,593	7,572
野上弥生子文学記念館	4,787	3,945	4,402	3,587	2,515	2,819	3,043	2,630	2,028	2,845
サーラ・デ・うすき	47,203	48,704	43,138	44,137	74,441	75,788	60,800	39,172	36,660	60,543
臼杵市歴史資料館	—	—	—	5,521	5,191	6,505	4,099	3,075	5,799	6,614
観光交流プラザ	—	53,666	54,416	55,687	47,395	42,991	41,909	39,230	42,476	38,560
吉丸一昌記念館	1,220	814	1,169	923	690	1,470	786	1,707	735	392
合計	193,322	236,267	240,093	223,035	236,684	241,397	223,635	143,604	148,088	189,203

(出典：臼杵市)



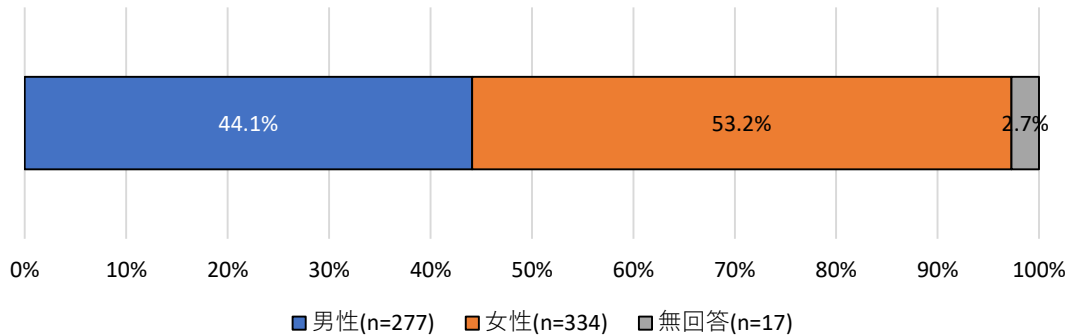
②本市を取り巻く環境について

国宝臼杵石仏（以下、「臼杵石仏」という。）の入場口において、旅行消費額や満足度、リピーター率等を把握し、観光戦略を検討する基礎情報として入場者に対して実施した令和4年度（11月期）に行ったアンケート調査結果を踏まえて整理する。

【令和4年度 臼杵市観光客動向調査】628 サンプル

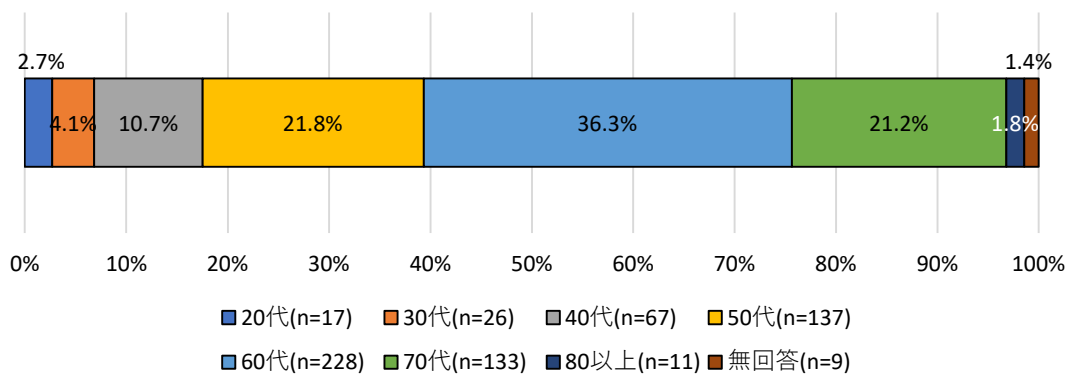
ア. 回答者の概要

性別について、「男性」が44.1%、「女性」が53.2%となっている。



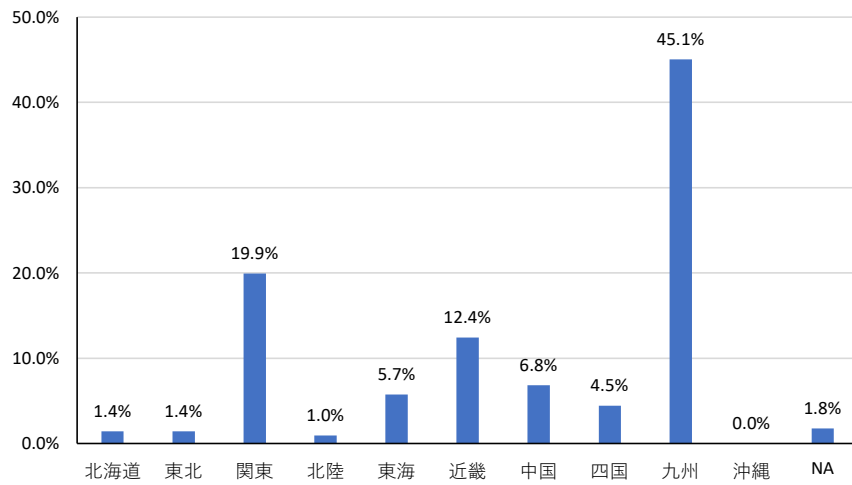
回答者の性別（n=628）

年代について、「60歳代」が36.3%、「50歳代」が21.8%と半数を占めている。

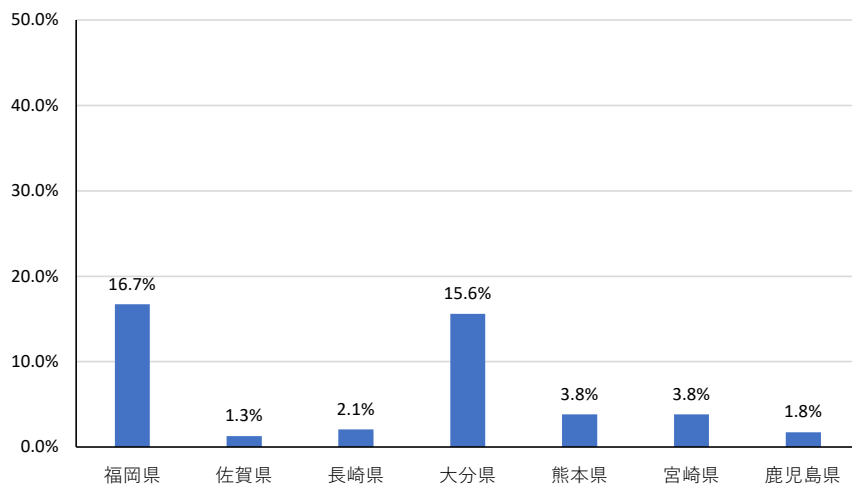


回答者の年代（n=628）

居住地について、「九州」が45.1%と最も多く、次いで「関東」19.9%であった。九州の中でも「福岡県」が16.7%、「大分県内」が15.6%であり、福岡県が最も多い結果となった。

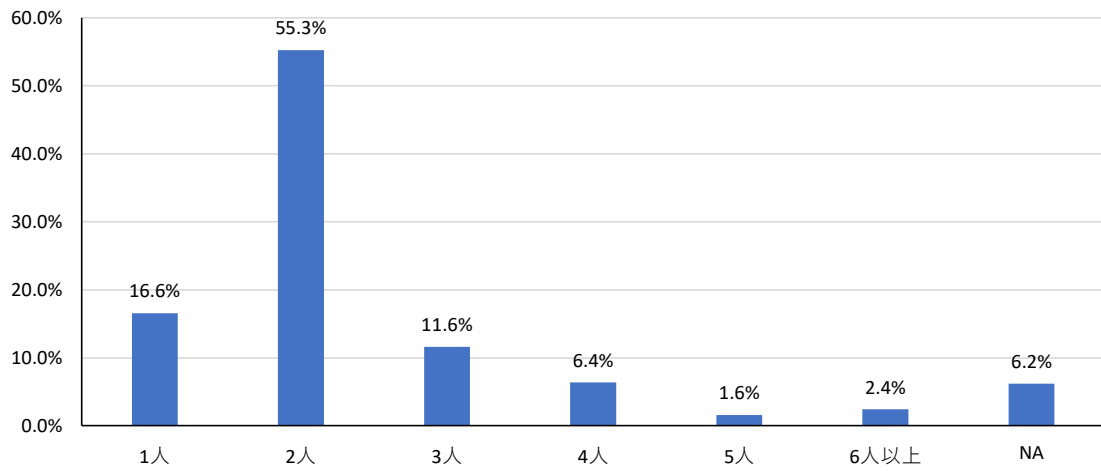


回答者の居住地 (n=628)



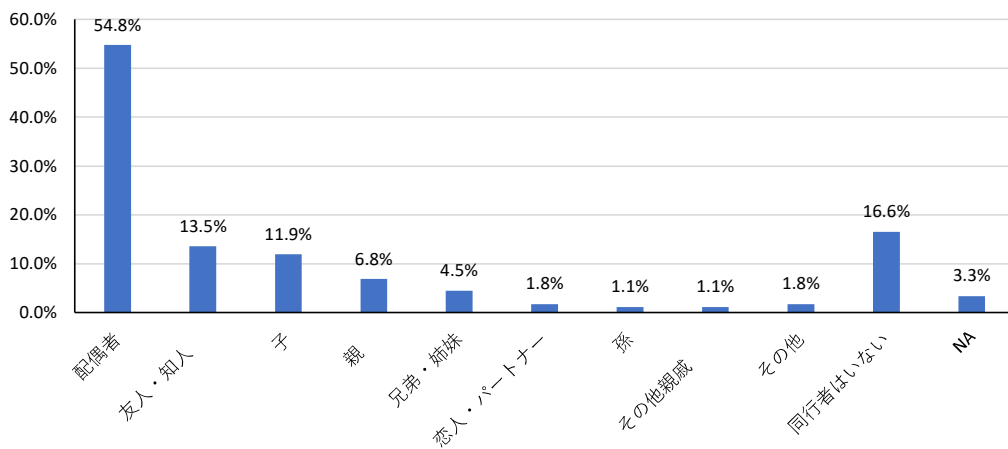
回答者の居住地 (九州) (割合は全体 (n=628) に占める割合)

訪問人数について、「2人」が最も多く 55.3%、「1人」が 16.6%、「3人」が 11.6%、「4人」が 6.4%、それ以上は 1~2%前後である。



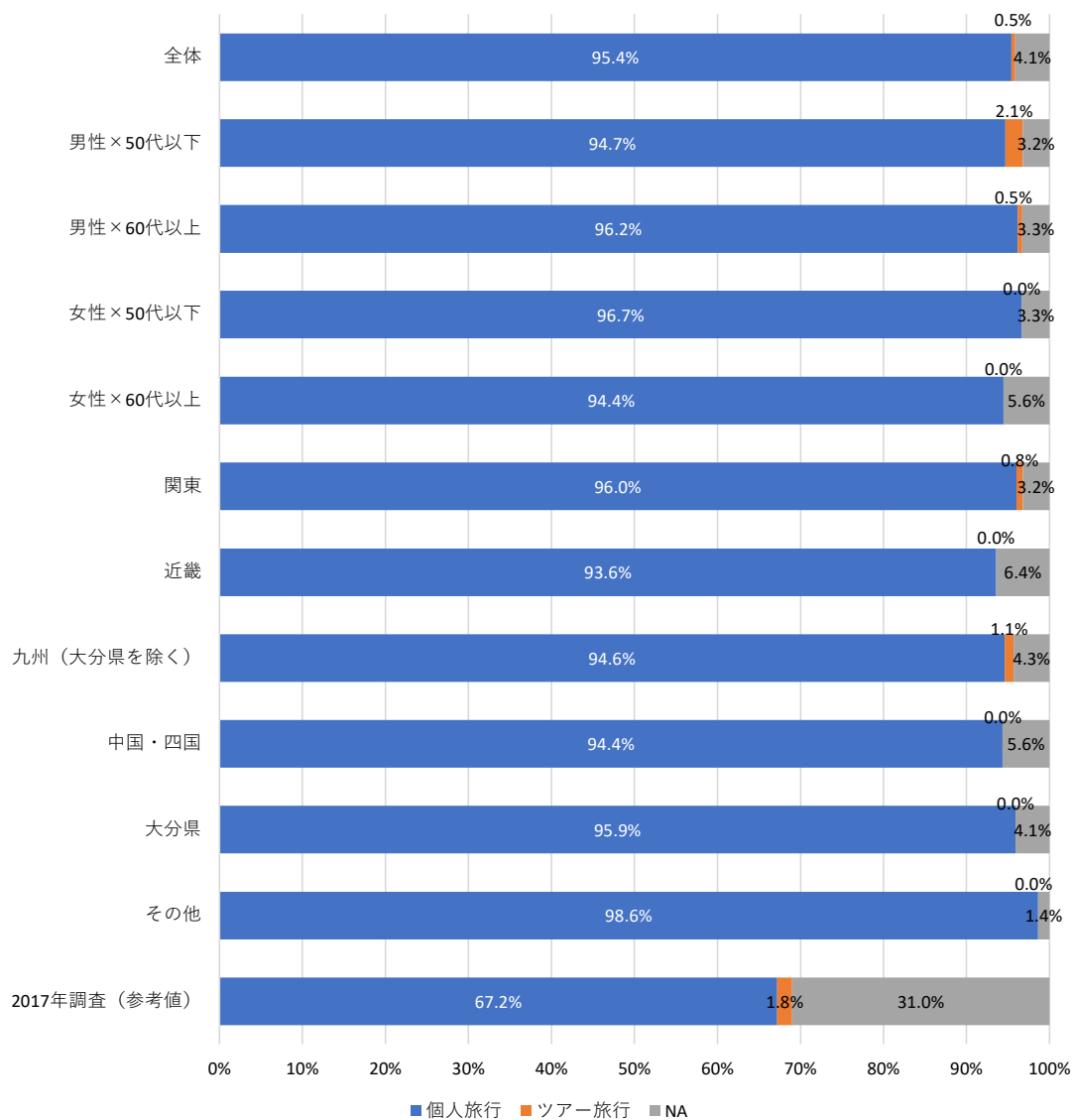
臼杵市への来訪回数 (n=628)

同行者の属性について、「配偶者」が最も多く 54.8%、「友人・知人」が 13.5%と両方で 60%を超えている。



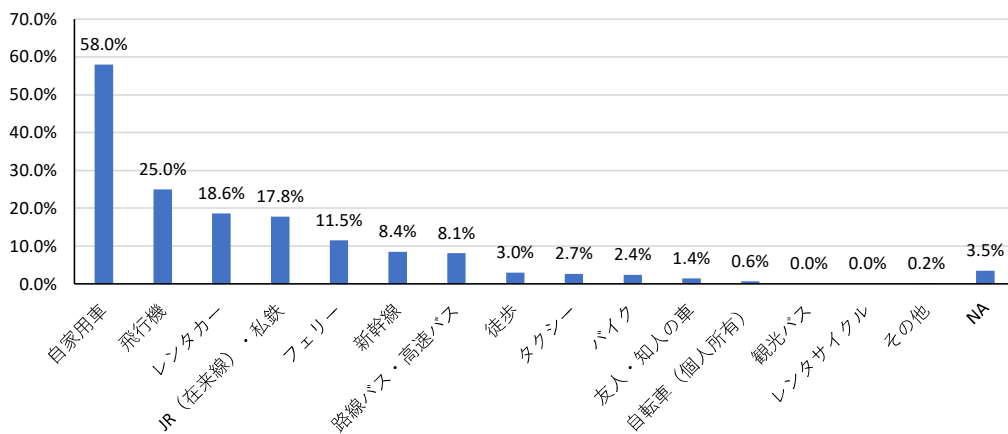
同行者について (複数回答可) (n=628)

旅行形態について、ほとんどの回答者が「個人旅行」であり、「ツアー旅行」はわずかであった。



旅行形態について (n=628)

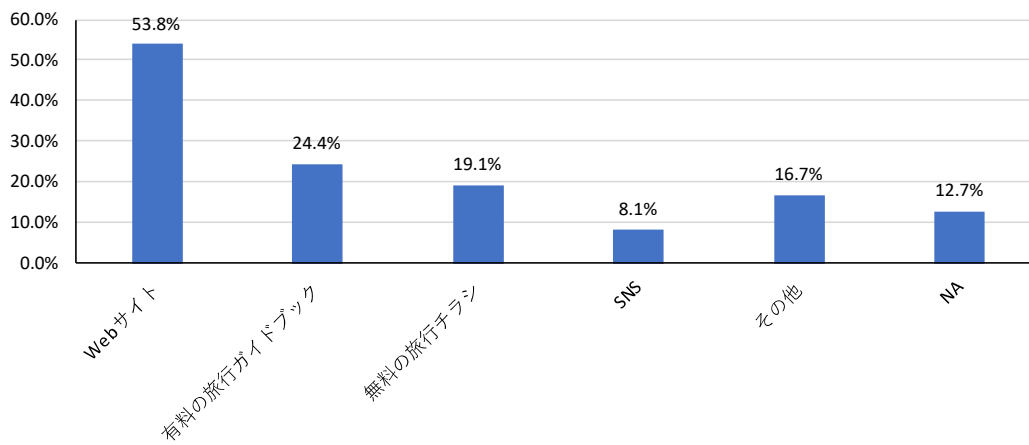
交通手段について、「自動車」が最も多く 58.0%、次に「飛行機」が 25.0%となっている。



自宅から臼杵市までの主な交通手段（複数回答可） (n=628)

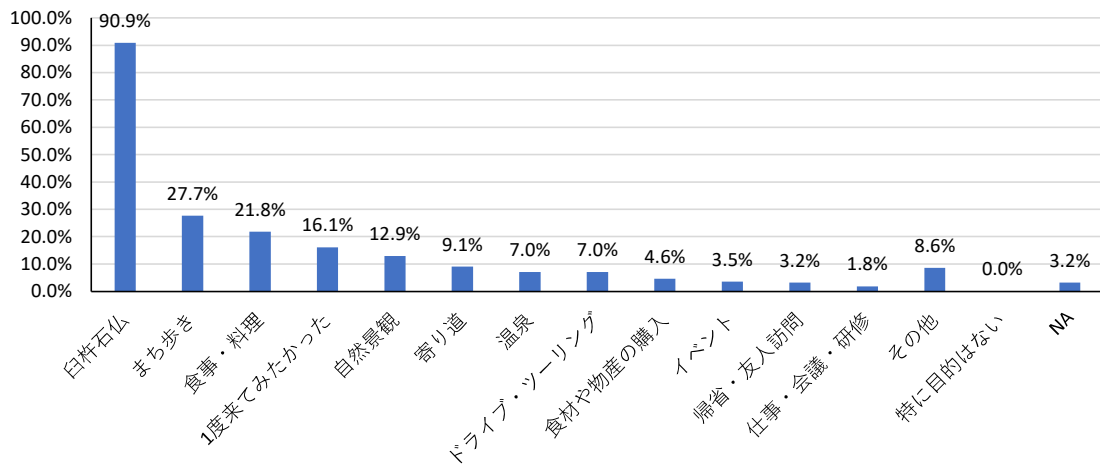
イ. 訪問目的・訪問回数・満足度等

臼杵市に関する情報源は、「Web サイト」が 53.8%と突出しており、「有料のガイドブック」が 24.4%、「無料の旅行チラシ」が 19.1%と続く。「SNS」が 8.1%と低い状況となっている。



臼杵市に関する情報源（複数回答可）（n=628）

訪問の目的について、臼杵石仏で調査したこともあるが、「臼杵石仏」が多く 90%を超えている。次いで「まち歩き・城跡見学など歴史文化に触れる」が 27.7%、「食事・料理を楽しむ」が 21.8%とつづいた。

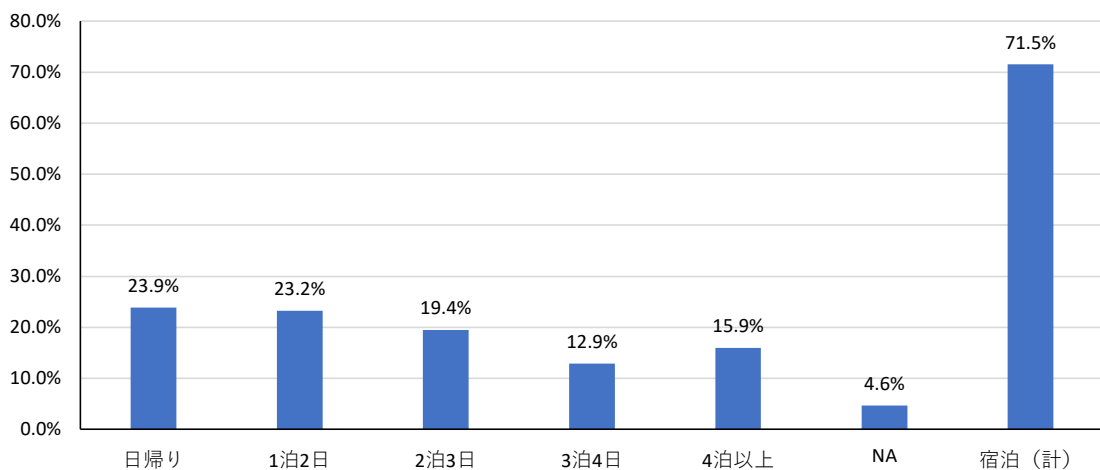


臼杵市内観光場所（複数回答可）（n=628）

宿泊の有無は、「日帰り」が 23.9%、「宿泊あり」が 71.5%となっている。「宿泊あり」の回答者の中で「臼杵市内での宿泊」は 15.1%であった、

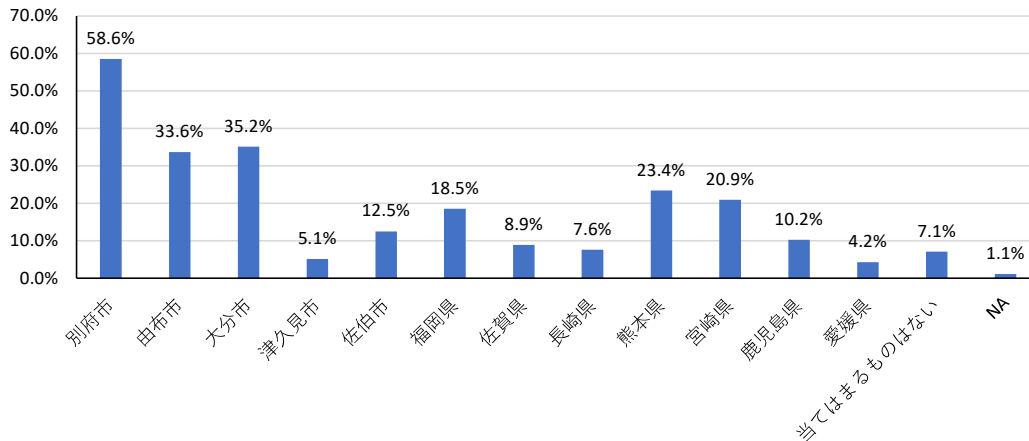
居住地域別にみると、大分県居住者は「日帰り」が 77.6%と他と比較し多かった。

九州、中国・四国居住者は「1泊2日」が多く、関東、近畿居住者は「2泊3日」や「4泊以上」が多かった。



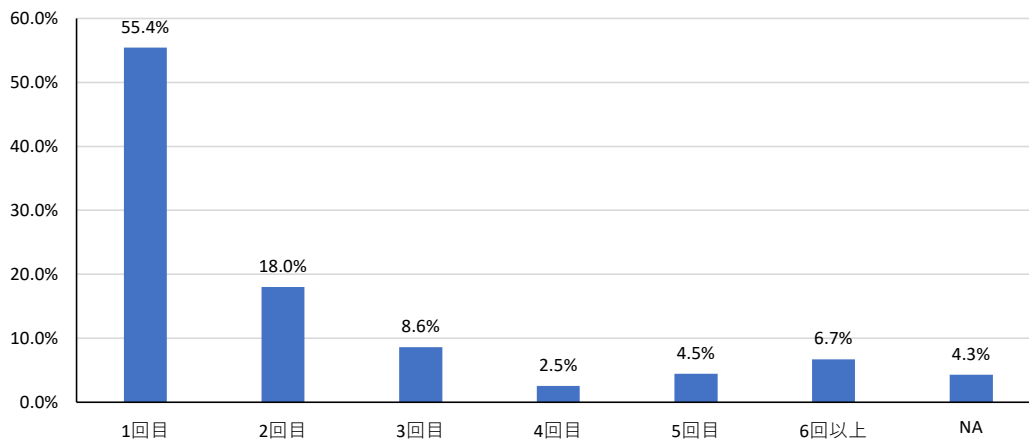
旅行日数（n=628）

宿泊を伴う観光において臼杵市以外に訪問した場所は「別府市」が58.6%と最も多く、次いで「大分市」35.2%、「由布市」33.6%であった。



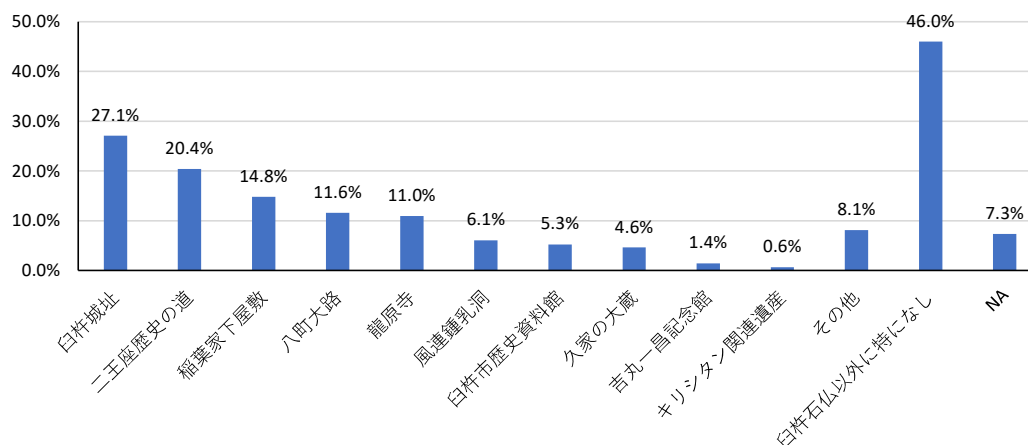
宿泊を伴う観光客における臼杵市以外に訪問した場所について（複数回答可）（n=449）

臼杵市への訪問回数について、「1回目」が55.4%と多く、「2回目以上」のリピーター率は40.3%となっている。



臼杵市への来訪回数（n=628）

臼杵市内において訪問した施設について、臼杵石仏以外では、「臼杵城跡」が27.1%、「二王座歴史の道」が20.4%とやや高くなっている。



臼杵市内観光場所（複数回答可）（n=628）

臼杵市を訪問した総合的な満足度については、11段階評価（10が最高評価、0が最低評価）で6.81の高評価となっている。

		回答数	平均値	標準偏差
全体		619	6.81	2.37
性別×年代	男性×50代以下	92	7.05	2.13
	男性×60代以上	182	6.53	2.22
	女性×50代以下	149	6.92	2.59
	女性×60代以上	175	6.91	2.38
居住地域	関東	124	6.96	2.39
	近畿	78	6.77	2.43
	九州（大分県を除く）	183	6.97	2.37
	中国・四国	71	6.58	2.15
	大分県	94	6.66	2.53
	その他	69	6.62	2.19

ウ. 市内での観光消費額

宿泊の有無で消費額動向をみると、「宿泊あり」では 9,252 円であるのに対し、「宿泊なし」では 4,566 円と 2 倍近い差が生じている。

臼杵市内における消費金額

単位 (円)

項目	日帰り観光客	宿泊観光客
	1人あたりの平均消費額 (n=150)	1人あたりの平均消費額 (n=449)
昼食代	2,780.4 (n=93)	3,004.3 (n=228)
夕食代	サンプル数過小につき算出不可	3,830.8 (n=127)
喫茶代	653.2 (n=50)	544.1 (n=155)
土地土産購入代	1,869.7 (n=101)	2,508.0 (n=252)
施設入場料	1,056.7 (n=127)	1,030.9 (n=350)
体験等参加料	サンプル数過小につき算出不可	サンプル数過小につき算出不可
買物代	1,000.9 (n=47)	1,404.1 (n=170)
宿泊代	日帰りのため算定不可	9,191.8 (n=155)
合計	4,566.6 (n=149)	9,252.8 (n=425)

(宿泊代については、臼杵市内に宿泊していない回答者も含まれている)

エ. 少子高齢化と人口減少

2000年に45,486人であった人口は、2010年に41,469人、2020年には36,158人と減少の一途をたどっており、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年の人口は24,194人程度になると推測されている。

2045年には年少人口（0～14歳）が10%未満、生産年齢人口（15～64歳）が45%未満という、少子高齢化のますますの進行と労働力不足に伴う産業の低迷が懸念されている。

臼杵市の人口推計について

区分	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年 (予想)	2030年 (予想)	2035年 (予想)	2040年 (予想)	2045年 (予想)
総人口	45,486	43,352	41,469	38,748	36,158	32,961	30,030	27,103	24,194	21,508
年齢別人口	年少人口 (～14歳)	5,910	5,216	4,828	4,313	3,741	3,250	2,821	2,413	2,090
	生産年齢人口 (15～64歳)	27,378	25,229	23,145	19,805	17,485	15,381	13,782	12,384	10,602
	高齢者人口 (65歳～)	12,188	12,905	13,480	14,630	14,828	14,330	13,427	12,306	11,502
	後期高齢者人口 (75歳～)	5,320	6,503	7,447	7,763	8,043	8,849	8,923	8,433	7,545
年齢別割合 (%)	年少人口 (～14歳)	13.0	12.0	11.6	11.1	10.3	9.9	9.4	8.9	8.6
	生産年齢人口 (15～64歳)	60.2	58.2	55.8	51.1	48.4	46.7	45.9	45.7	43.8
	高齢者人口 (65歳～)	26.8	29.8	32.5	37.8	41.0	43.5	44.7	45.4	47.5
	後期高齢者人口 (75歳～)	11.7	15.0	18.0	20.0	22.2	26.8	29.7	31.1	31.2

(出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』)

オ. 空き店舗・空家

城下町エリアには空家が散見されるとともに、町八町地区は高齢化率も42.7%と臼杵市全体の37.2%と比べても高い数値であり、今後の空き店舗・空家の増加が懸念されている。

カ. 世界的な「持続可能な観光」への関心の高まり

観光分野においても、CO₂ 排出量削減への関心が高まっている（COP26におけるグラスゴー宣言等）コロナ禍を経て、世界の旅行者の約71%がサステナブルな旅行に関心があると回答されている。

キ. 旅行形態の変化とニーズ多様化

・団体旅行（パッケージツアー）から個人旅行（FIT）への移行はコロナ前から緩やかに増加していたが、コロナ禍を契機に加速した。観光ニーズも、マイクロツーリズム、アドベンチャーツーリズムなど多様化、アウトドア、アクティビティにも再注目されている。

ク. DXによる劇的な社会変革

・デジタル化の進展に伴い、それを活用した業務プロセスの改善、効率化などの環境整備に取り組む企業が増加。会議や商談などがリモートでも可能になり、観光でもVRを活用した疑似旅行など、移動せずとも可能なものが登場している。

2 主な課題

本市の現状を踏まえて、今後取り組んでいくべき主な課題を次のように整理する。

課題1 来訪者の確保

臼杵市の来訪者は60歳代がボリュームゾーンで、その前後の50歳代、70歳代を含めると全体の4分の3を占めている。臼杵市の観光の継続的発展のためには、50歳から70歳代のボリュームゾーンの確保はもちろんのことであるが、各年齢層や外国人、障がいのある方など来訪者のニーズに応じた訴求方法を検討していく必要がある。また、ターゲットとする地域を選定し、効果的なPRを行うことも今後必要な課題であると言える。

課題2 認知度の向上

臼杵市内には、臼杵石仏や臼杵城跡、歴史的な街並み、下藤キリシタン墓地に代表されるキリスト教関連史跡など以外にも、野津地域を中心に取り組んでいる農泊体験や有機農業、豊かな海で水揚げされる海産物、古くから受け継がれている醸造業等の産業、それに伴う物産が存在する。特に、ユネスコに認められた食文化を観光資源として磨き上げ、情報発信の強化による認知度向上とブランディングの強化などに取り組んでいく必要がある。

課題3 観光客の滞在時間の延長への対応

臼杵市への旅行形態は宿泊旅行での訪問が7割以上を占めているものの、臼杵市内の宿泊者は2割程度で市内宿泊率は低くなっている。宿泊施設の客室キャパシティや近隣に有名温泉地があることから、県内の温泉地との組合せ観光になっていることが推測される。また、日帰り観光客の平均滞在時間は1~2時間が32.7%と最も多く、市内において周遊があまりされていないことが示唆される。観光による経済効果を高めるためには、近隣市や同じテーマ性を持った市町村と連携した日帰り需要の獲得と、食事の機会の増加による滞在時間の延長、併せて宿泊率の向上にも取り組んでいく必要がある。

課題4 リピーターの強化と拡大施策の強化

来訪者調査の回答者の55.4%が初来訪となっている。リピーターは4割存在するものの、そのうち4割強が、2回目の来訪となっており、高頻度での来訪に結び付いていない。多様なニーズを持つ国内外の観光客に対して、何度でも来訪する価値が場所になるためには、他地域との差別化と誘客強化に向けた「臼杵らしさ」や「臼杵市の独自性」を強く感じられるような取り組みや“違う季節に訪れたい”“あの人／あの場所／あの食事がお気に入りだ”と来訪者に感じさせるための交流・風土を創出し、土地と縁を結ぶ仕組みを構築していくことが求められる。

課題5 サービス消費の機会提供不足

来訪者のお土産購入や施設入場、並びに体験参加にかかる費用が一人あたりそれぞれ2,608円、1,051円、1,962円と高くない。臼杵石仏や二王座歴史の道などの文化資源工リ

アの周遊が観光のモデルコースとなっており、飲食以外の消費スポットが限られていることや、物産（お土産など）や体験コンテンツ（今あるコンテンツの認知も含む）が不足していることがその要因となっている。今後、既存施設の新たな利活用の整備を含め、観光客にニーズに合った魅力的なお土産や体験コンテンツの開発、商品造成の支援に取り組む必要がある。

課題6 地震・津波等の影響を受けやすい地理的環境

沿岸部に観光地区が立地していることから、大規模地震発生時に、これに伴う津波の被害を受けるリスクがある。災害時に、外国人を含めた観光客の安全を担保するため、事業者も含めハザードマップや避難経路などの周知の取組が必要とされる。

課題7 多様化するツーリズムへの対応

現在、国内においては、テーマ性を持った体験型の旅行スタイル（ツーリズム）がインバウンドや地域活性化につながるものとして期待されている。臼杵市においても農泊（グリーンツーリズム）を代表として、様々なツーリズムに対応できる土壌を活かし、ユニバーサルツーリズムは勿論のこと、例えば、食文化を活かしたガストロノミーツーリズムなど旅行者それぞれの興味・関心に応じたテーマ・ストーリー性のある滞在プランの洗い出し・作成など、地域ならではの体験への対応が求められている。

課題8 臼杵石仏や臼杵城跡を中心とした風情溢れる城下町のたたずまいや稲葉家下屋敷などの歴史的資源の魅力再確認と高付加価値化

すでに存在する歴史的資源の価値に気づき、価値を活かす取組を行うことが求められている（歴史的資源には建造物等だけでなく、地域の文化、風土、景観なども含む。）。特に今後は、個々の資源を融合的に活用することで地域全体の魅力向上につなげることが求められている。

また、城下町を構成している古民家などの空き家・空き地化のリスクに対して、景観保全の取組みが求められている。

3 観光振興戦略とは

(1) 上位・関連計画との関係性

臼杵市観光振興戦略は、本市の上位計画として「第2次臼杵市総合計画（2020～2024）」のもとに位置づけられるものである。

(2) 持続可能な開発目標（SDGs）との関係性

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27年9月国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残されない」を誓っている。貧困・格差の撲滅等、持続可能な世界を実現するために先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標である。

目標達成に向けて観光分野への期待が明記されているのは、SDGsの17の目標の内、目標8、12、14である。これは、観光が有形・無形の文化遺産や自然環境に配慮しつつ、地域への雇用や収入を生み出し、その持続可能な発展の推進力となることへの期待を表すものである。また、UNWTO（国連世界観光機関）では、観光によるSDGsへの貢献について、経済的な側面のみならず、社会や貧困、自然・環境、文化遺産、相互理解や平和の創出といった分野でも大きく貢献できるとし、17すべてのSDGsに関連する可能性があることを確認している。

このような状況を踏まえ、国のSDGs実施方針では、地方公共団体の各種計画等の策定にSDGs達成に向けた貢献という観点を取り入れることとされている。

こうしたことから、本プランの取組みがSDGs達成に貢献できるよう、本プランにおいて取り組む各施策に8、9、11、17のSDGsアイコンを表示し、官民ともに連携して取り組むべき課題であることのメッセージを伝え、一層の推進を図る。



SDGs 17 の目標

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

(3) 日本版持続可能な観光ガイドラインとの関係性

観光庁と国土交通政策研究所は、2018年に主要観光地を抱える全国の自治体を対象に持続可能な観光（主にオーバーツーリズムに関する課題）についてのアンケート調査を実施した。

その結果、アンケートに回答した多くの自治体が、訪問する旅行者の増加に関連する課題の発生を認識しており、特に近年では混雑やマナー違反に関する個別課題を強く意識する傾向にあること、そうした自治体の多くが、これらの課題に対し、様々な対応策を講じ始めていることが明らかになった。

観光庁は、その結果を2019年6月公表の報告書『持続可能な観光先進国に向けて』にとりまとめ、同報告書では国内外の先進事例を提示しつつ、観光庁の今後の取組の方向性を整理している。

報告書では、2030年の訪日外国人旅行者数6,000万人などの政府目標の達成と同時に、観光客と地域住民の双方が満足できる持続可能な観光を実現するには、適切な観光地マネジメントが不可欠であり、そのために観光指標のあり方について検討を進めることとされた。

ここでいう観光指標とは、観光客の入込人数や消費額など経済的な側面だけを対象とするものではなく、例えば、観光地の運営に地域住民の意見を反映しているか、地域の自然や文化的資源の保護計画が策定されているか、危機管理は的確になされているかなど、経済、文化、環境、住民それぞれの広範な分野に及ぶ。

観光指標は、各分野について設定された項目に対し、客観的なデータ測定による現状把握、目標の設定、取組・対策の実施、達成状況のモニタリング及び検証結果に基づく改善という循環を繰り返すことにより、観光が地域に与える影響のプラス面を最大化し、マイナス面を最小化するための指針を示すものと位置付けられる。

このような背景の下、開発された持続可能な観光指標が、「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D）」である。このガイドラインを各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が活用することにより、地域での多面的な現状把握を可能にし、継続的なモニタリングと証拠資料（エビデンス）に基づいた観光政策や計画の策定、それらに基づく持続可能な観光地マネジメントの促進を目的としている。

本市においても「日本版持続可能な観光ガイドライン」の活用について、調査する。

(4) 戦略策定の目的

臼杵市はその地理的環境から、本州・四国や九州、ひいては外国と日本とを繋ぐ重要な交通結節点であったと考えられる。平安期の中央文化の影響を受けた技術により建立された磨崖仏が数多く残るほか、戦国時代にはキリスト教を柔軟に受け入れて国際的な商業都市として発展するなど、柔軟性とおおらかさによって多様な文化を吸収し、発展させてきた歴史がある。

現在の臼杵市の観光は、臼杵石仏や臼杵城跡、二王座歴史の道などの限られた観光資源を巡る通過型観光が主体となっている。また、臼杵市の地理的、また歴史的環境から花開いた醸造業や漁業、農業、造船業などの各種産業や地域の生業の観光資源化に遅れが見られ、臼杵市の多面的な魅力の発掘と訴求、並びにそれを域内消費に繋げていくための活動の遅れという課題を抱えている。

大分県が策定した「日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略 2022-2024」におけるツーリズム戦略の目的においても「元気で魅力あふれる大分県づくりを進めていくためには、地域振興と観光振興を一体に進めるツーリズムの推進と観光産業の振興を着実に進展させることが重要です。」とあり、地域振興と観光振興の一体的な推進の重要性について述べられている。

このような環境の中で、今後の臼杵市の観光産業は、観光を取り巻く環境の大きな変化を見据え、来訪客数の増加と来訪目的の多様化に伴う受入環境の充実が求められており、観光行政と民間事業者が有機的に連携しスピード感を持って観光振興に係る活動を推進していくこと、並びに、実施した観光施策の検証とモニタリング体制を整えることが課題となっている。

こうした状況を踏まえ、本戦略は、臼杵市が持つ特徴と優位性、文化性や産業、都市の生業という地域らしさを観光資源として磨き上げ、例えば、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.)の創造都市ネットワーク加盟都市として、臼杵スタイルの循環型社会の確立、戦国武将である大友宗麟が築城した臼杵城跡の国指定史跡への登録を目指す取り組みなど国内外の観光客に高く評価される地域となることを目指し、その実現に向けた観光振興を進めていくための指針を示すものとする。また、この戦略を実施していくことで、臼杵市民、並びに臼杵市で就学・就労に従事する人々にとっても魅力的なまちづくりに寄与することを目指すものである。

(5) 戦略の期間：令和6年度～令和8年度

本戦略の対象期間は、2024年度を初年度とし、2026年度までの3年間とし、その内容を第3次臼杵市総合計画(2025年度～)へ反映させることを想定している。

ただし、世界を取り巻く新型コロナウイルス感染症の状況の変化に伴う観光状況の変化、基本的な施策の変更等があった場合は、必要に応じて戦略の見直しを行う。

(年度)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
第2次臼杵市総合計画	→						
第2次臼杵市観光振興戦略	→						
第3次臼杵市観光振興戦略		→					
第4次臼杵市観光振興戦略					→		

4 将来像

(1) 臼杵市が目指す観光ビジョン

本戦略において、本市の目指す 10 年後の将来目標像を次のように設定する。

貴重な歴史資源・自然資源と、それに育まれた産業を継承しながら、暮らす人が誇りをもつことができ、働く人と訪れる人にとって「初めてくるのに懐かしい、いわば第 2 のふるさと」となる魅力的な観光地の形成を目指す。

具体的には、

- ・臼杵で暮らす人が観光を通じ、歴史・自然・食など臼杵の魅力を再発見することで、臼杵に対する誇りを持ち、愛着を持って暮らしている。
- ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市「臼杵」の進化・発展を目指し、市内企業や観光関連産業が地域の消費拡大を牽引し、活力に溢れた地域となっている。
- ・臼杵城跡を中心とした城下町や食文化を通じた臼杵でしか体験できない魅力的な観光コンテンツがあり、観光地として認識されている。
- ・「臼杵」が観光地として国内外で認知が進み、リピーターが多く、観光とまちづくりにより域内消費が拡大し、臼杵市や県内の経済が活性化している。

(2) 観光ビジョン達成に向けた 3 つの基本方針

将来目標像を達成するための指針となる、3 つの基本方針とその概要について、以下に示す。

- 臼杵ならではの観光資源の魅力向上・創出により、誘客・リピーターの拡大を目指す。
 - ・域内周遊中の体験・消費機会の拡大
 - ・DX の活用を含めた新たなコンテンツ、物産・食等の開発促進
 - ・既存観光施設・宿泊施設の更なるサービス品質と価値の向上
 - ・事業者、住民が観光に参画しやすい仕組みの構築
- 臼杵市民全体でおもてなしの心を醸成し、持続可能な観光（SDG₅）の実現
 - ・自然環境や景観を損なわずに資源価値を高め、変わらない良さと新鮮さを両立
 - ・あらゆる人にとって観光・滞在がしやすい観光地に向けたユニバーサルツーリズムの促進
 - ・災害・事故対応力の強化
 - ・観光産業従事者や市民のホスピタリティスキルと宗教を含む外国の文化への理解の向上
- 世界の人から選ばれる「USUKI」を目指し、ブランディングを強化する。
 - ・ターゲットを絞った（高付加価値の）、地域ブランディング戦略、プロモーション戦略、商品戦略の明確化
 - ・「もの」から「こと」へ、臼杵滞在スタイルの構築

5 戦略推進に向けた関係者の役割

(1) 市民の役割

観光地づくりは、「住んでよし、訪れてよし」のまちを目指すものと言われており、臼杵に住んでいる市民こそが臼杵の良さをよく知っている。したがって、それに気付き、誇りを持つことによって自らが地域を楽しみ、その情報を発信し、訪れてきた人に積極的におもてなしの心を持って対応する。

(2) 観光関連事業者等の役割

飲食、宿泊など観光に直接関わる事業者だけでなく農業者、漁業者、商工業者、金融機関など多様な事業者は、お互いを尊重し、切磋琢磨しながら本市の魅力を高める観光事業やPRについて積極的に参画するよう努める。

(3) 観光関連団体の役割

観光協会などは、本市にある観光資源の掘り起こし、コンテンツ造成、体験型商品の開発・販売などに取り組むとともに、周辺自治体との連携を図り、各組織・団体の会員の意見をまとめ、観光地域づくりの旗振り役としての役割を担う。

(4) 行政の役割

大きな視点で観光振興戦略の道筋を立て、それを市議会や市民に示し、観光を牽引する。さらに、観光関連団体や同事業者等の取り組みを積極的に支援し、本市観光振興が加速するよう促す。また、新規の体験プログラムなど着地型観光の促進を支援するとともに、インバウンド対策などのハード整備や地域経済、移住・定住促進等の幅広い役割を観光が担っていることの啓発を行う。

6 将来目標像へ向けた4つの戦略

1 観光資源戦略

- ・1-1 「臼杵らしい」文化・自然・歴史・食コンテンツと紐づけた体験メニューや物産の開発
- ・1-2 臼杵城跡を中心とした街並み、社寺等の歴史資源、文化、産業資源等の観光資源としての活用促進
- ・1-3 臼杵石仏、下藤キリシタン墓地を始めとした祈りの文化資源を活かしたストーリー作りと、類似資源を有する国内外他地域との連携促進
- ・1-4 特定の季節やイベント時における“今しかできない・ここでしかできない”体験・消費機会の創出
- ・1-5 造船業、醸造業、漁業、農業など関連産業と連携した持続可能な観光コンテンツの創出

2 情報発信・誘客促進戦略

- ・2-1 定期的・継続的な観光マーケティングの実施による WANT の把握とターゲットニーズに適した絞り込み
- ・2-2 マーケティングに基づいた戦略的プロモーションの実施と「臼杵市」の観光地ブランディング戦略の検討
- ・2-3 ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市であることを観光に最大限活用する誘客促進
- ・2-4 国内外でターゲットとする地域を明確にし、ターゲットとするお客様層、旅行形態を想定した効果的な誘客促進の実施
- ・2-5 国内外の大規模イベント等を活用した臼杵市の魅力発信
- ・2-6 観光情報発信体制の強化
- ・2-7 別府市、由布市等、県内他地域や愛媛県等他県との連携を通じた広域周遊観光の促進

3 受入環境整備戦略

- ・3-1 交通環境、駐車場環境の整備、移動サポート機能強化による滞在・周遊快適性の向上
- ・3-2 案内サインや情報ツールの多言語対応、観光事業者、市民全体の宗教を含む他国の文化習慣への対応力強化、ユニバーサルツーリズムの促進
- ・3-3 行政並びに民間による自然環境や景観の保全並びに改善・再生
- ・3-4 市民及び学校教育における観光産業に関する学習の推進を通じた、観光への興味関心の醸成
- ・3-5 災害時の観光客に対する避難誘導サイン及びハザードマップの作成及び周知
- ・3-6 観光事業者をはじめ、市民全体のホスピタリティスキルや情報伝達力の育成を通じた、地域の魅力伝達力の向上

4 観光産業活性化戦略

- ・4-1 多様な人材が、様々な就労形態で観光産業に寄与できる働きかたの推進
- ・4-2 まちづくり活動と観光振興活動との連携強化
- ・4-3 SNS等を活用した、市民による地域の魅力発信力の強化
- ・4-4 県内の高校生・大学生、留学生、インターンシップ生等の観光産業における連携推進
- ・4-5 臼杵市の物産の魅力の情報発信強化による訪問意欲の向上
- ・4-6 域内観光周遊のための市内宿泊施設の活性化支援及び体験を絡めた宿泊ツアー開発、並びに宿泊事業への参画促進

【本戦略の3年間における主要な施策展開】

1 観光資源戦略


多様化する旅行者のニーズを踏まえつつ、臼杵市ならではの観光資源の創出・魅力向上を図り、誘客・リピーターを拡大するとともに観光消費額の増加を図る。

施策1-1


施策名	「臼杵らしい」文化・自然・歴史・食コンテンツと紐づけた体験メニューや物産の開発			
現状	体験メニューの開発・提供が求められている。			
事業内容と目的	臼杵市の文化と紐づく「見る・知る・触れ合う・出会う」ことで心を動かす「臼杵ならではの」体験コンテンツの開発			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①コンテンツの洗い出し、検証 ②既存コンテンツ支援	・コンテンツの造成支援	→	
指 標	①コンテンツの調査結果【目標(4)、(6)、(7)】 ②既存コンテンツの支援数【目標(1)、(2)、(4)】			

※指標の【 】内は対応する戦略目標を示す。以下、全て同じ。

施策 1-2

施策名	臼杵城跡を中心とした街並み、社寺等の歴史資源、文化、産業資源等の観光資源としての活用促進			
現状	臼杵城跡及びその城下町に存在する資源の新たな活用が必要			
事業内容と目的	臼杵城跡を中心とした街並みなどの背景を掘り下げた観光資源の発掘及び活用			
関係機関事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①稲葉家下屋敷の活用 ②臼杵城跡の観光活用再調査 ③城下町泊の研究 ④観光施設の再活用検討	臼杵城跡の観光用案内板 (VR等含む) の設置	→	
指 標	①下屋敷の入館者数及び貸館件数【目標 (6)】 ②観光活用事業数【目標 (4)】			

施策 1-3

事業名	臼杵石仏、下藤キリシタン墓地を始めとした祈りの文化資源を活かしたストーリー作りと、類似資源を有する国内外他地域との連携促進			
現状	臼杵石仏、下藤キリシタン墓地など東西両世界の宗教文化資源の活用が求められている。			
事業内容と目的	「うすき祈りの回廊」による誘客促進とブラッシュアップ			
関係機関事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会、商工会議所、商工会			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①祈りの回廊のブラッシュアップ・PR	→		
指 標	①うすき祈りの回廊スタンプ手帳配布数【目標 (4)、(5)、(6)】			

施策 1 - 4

施策名	特定の季節やイベント時における、“今しかできない・ここでしかできない” 体験・消費機会の創出			17 <small>パナソニックは未来を創ります</small>
現状	特定の季節やイベント時での消費機会の創出が求められている。			
事業内容と目的	うすき竹宵や祇園祭などの臼杵市が誇るイベント等での観光客の消費機会の創出			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①旅行者を対象としたモニターツアーの検討 ②臼杵石仏国宝 30 周年記念イベントの企画	企画ツアーの造成支援 臼杵石仏国宝 30 周年記念イベントの実施	→	
指 標	①企画ツアーの参加者数【目標 (1)、(2)、(3)、(6)、(7)】 ②イベントの参加者数【目標 (6)、(7)】			


施策 1 - 5

施策名	造船業、醸造業、漁業、農業など関連産業と連携した持続可能な観光コンテンツの創出			11 <small>未来を創る</small>
現状	臼杵市特有の産業文化と連携した事業者と観光客がともに触れ合える観光コンテンツの創出が必要			
事業内容と目的	進水式、工場見学、漁業体験（釣り・養殖場含む）、農泊・農業体験など臼杵市が提供できるコンテンツの連携を図り、地域経済への波及効果を高める。			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会、商店街、漁協、農協ほか			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①臼杵まなび旅のブラッシュアップ	→		
指 標	①臼杵学び旅の利用者（団体）数【目標 (1)、(2)、(3)、(6)】			


2 情報発信・誘客促進戦略

定期的かつ継続的な観光マーケティングを行い、ニーズに沿った臼杵市の観光地ブランディングを推進し、ターゲットを絞った情報発信を行うことで、国内外から効果的な臼杵市への誘客を促進する。


施策2-1

施策名	定期的・継続的な観光マーケティングの実施による WANT の把握とターゲットニーズに適した絞り込み			
現状	情報収集等による誘客ターゲットの絞り込みが求められている			
事業内容と目的	効果的な誘客を促進するため、来訪客のニーズ把握によるターゲットの絞り込みの検討			
関係機関・事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①観光動態調査の実施 ②宿泊・飲食店利用客動向調査	→	→	
指 標	①観光動態調査の実施及び結果の公表【目標の確認】 ②実施対象施設数【目標(4)、(6)、(7)】			


施策2-2

施策名	マーケティングに基づいた戦略的プロモーションの実施と「臼杵市」の観光地ブランディング戦略の検討			
現状	ターゲットを絞った戦略的プロモーションと観光地としての「臼杵市」のブランディング化が求められている。			
事業内容と目的	観光動態調査などの結果に基づいたターゲットを絞った観光プロモーションとグリーンツーリズムを含めた、消費増加につながる各種ツーリズムの研究			
関係機関・事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①ターゲットを絞った情報の発信 ②各種ツーリズムの研究	→	→	
指 標	①プロモーション実施数【目標(6)、(7)】			

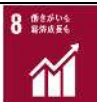
施策 2-3

施策名	ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市として食文化資源の創造性を観光資源として活かし、誘客促進につなげる			
現状	「食文化」資源の磨き上げと情報発信が求められている			
事業内容と目的	ユネスコ創造都市ネットワークの食文化分野で認められた、優れた個性を持つ臼杵市の「食文化」資源を継続・発展し活用する誘客促進			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会、食文化創造都市推進協議会			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①郷土料理等を含めた「食文化」による誘客促進	→		
指 標	①食文化事業の参加者数【目標 (4)、(6)、(7)】			


施策 2-4

事業名	国内外でターゲットとする地域を明確にし、ターゲットとするお客様層、旅行形態を想定した効果的な誘客促進の実施			
現状	臼杵市の特色と他地域の特色・特長を照らし合わせたマッチングと誘客ターゲットの選定が求められている			
事業内容と目的	ターゲット地域の選定と優先順位の設定。 誘客PR方法の選定と実施。			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①ターゲット地域の選定と誘客計画の検討 ②ターゲット地域への誘客PR	→		
指 標	①、②選定したターゲット地域へのPR活動数【目標 (4)、(5)、(6)、(7)】			


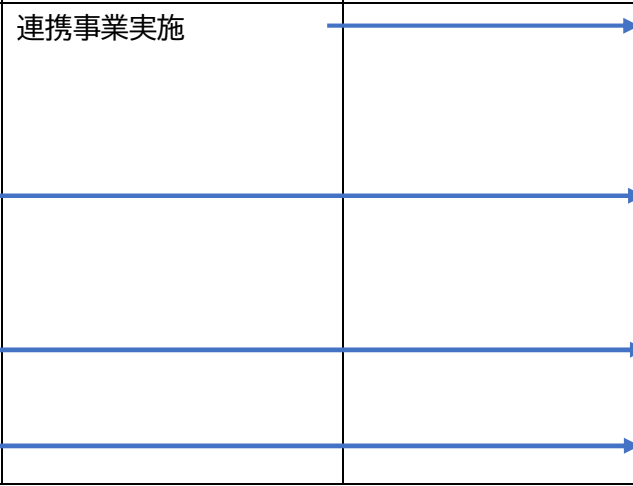
施策 2-5

施策名	国内外の大規模イベント等を活用した臼杵市の魅力発信 		
現状	2024年福岡・大分デスティネーションキャンペーンや2025年大阪・関西万博などの大型イベントを活用した臼杵市の魅力発信が必要		
事業内容と目的	福岡・大分デスティネーションキャンペーンでの臼杵市への誘客ツアー一造成及び情報発信、大阪・関西万博を訪れる外国人等を中心とした誘客ツアー一造成及び情報発信		
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、ツーリズムおおいた		
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	①DCでの誘客ツアー事業の実施 ②万博での誘客方法の検討 ③海外商談会への参加	万博からの誘客実施及び万博での情報発信	
指 標	①DCへの旅行業者のツアー一造成数【目標(1)、(2)、(3)、(6)】 ②万博に向けた情報発信数【目標(6)】 ③海外商談会への参加回数【目標(1)、(2)】		

施策 2-6

施策名	観光情報発信体制の強化 		
現状	臼杵市の情報を必要とする観光客等への情報の一元的な発信(収集含む)が求められている。		
事業内容と目的	(一社)臼杵市観光協会による臼杵市内の情報収集・発信能力(SNS等デジタル分野含む)の強化		
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会		
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	①臼杵市観光協会の情報収集、発信能力の強化支援		
指 標	①観光協会HPへのアクセス数及びその解析、SNSのフォロワー数【目標(5)、(6)、(7)】		


施策 2-7

<p>施策名</p>	<p>別府市、由布市等、県内他地域や愛媛県等他県との連携を通じた 広域周遊観光の促進</p>			<p>17 <small>パートナーシップで 目標を達成しよう</small></p> 
<p>現状</p>	<p>別府市、由布市等の県内有数観光地域や他県からの臼杵市への誘客促進が 求められている。</p>			
<p>事業内容と目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別府市、由布市の宿と連携した商品作りや共同キャンペーンの実施 ・津久見市、佐伯市との既存連携の仕組みをさらに強化し、相互誘客を実施 ・大分都市広域圏における活動への積極的な参画 			
<p>関係機関 事業者</p>	<p>臼杵市、(一社)臼杵市観光協会</p>			
<p>実施年度</p>	<p>令和 6 年度</p>	<p>令和 7 年度</p>	<p>令和 8 年度</p>	
<p>事業計画</p>	<p>①別府、由布市等との 観光協会との連携事業 検討 ②臼杵・津久見・佐伯県 南 3 市 (TPU) の連携強 化 ③都市広域圏事業への 参画 ④愛媛県等との連携事 業検討</p>	<p>連携事業実施</p>		
<p>指 標</p>	<p>①別府、由布市等との連携事業数【目標 (4)、(6)、(7)】 ②TPU 事 業実施数【目標 (4)、(6)、(7)】 ③都市広域圏事業への参加回数【目 標 (4)】 ④愛媛県等との連携事業実施数【目標 (4)、(6)】</p>			


3 受入環境整備戦略

誰もが安全・安心・快適に旅を楽しむことができるよう観光インフラ・ユニバーサルツーリズム・災害時対応などを含む、受入環境を整備し、誘客・リピーターを拡大する。


施策3-1

施策名	交通環境、駐車場環境、移動サポート機能強化による滞在・周遊快適性の向上			
現状	移動のための交通環境、駐車場整備等の機能向上が求められている。			
事業内容と目的	サイクルロードの検証と整備、バス、タクシーなどへの（だれもが快適に使えることを含めた）支援			
関係機関 事業者	臼杵市、（一社）臼杵市観光協会			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①サイクルロードの検証 ②バス、タクシーへの支援	サイクルロードマップの作成・配布	→	
指 標	①サイクルロードマップの作成、マップの配布数【目標（4）、（6）】 ②観光タクシーの利用者数【目標（4）、（6）、（7）】			


施策3-2

施策名	案内サインや情報ツールの多言語対応、観光事業者、市民全体の市民全体の宗教を含む他国の文化習慣への対応力強化、ユニバーサルツーリズムの促進			
現状	外国人にもわかる観光案内板やパンフレットの作成や誰もが安全・安心かつ快適に旅ができるようユニバーサルツーリズムの促進が求められている。			
事業内容と目的	<ul style="list-style-type: none"> 指さし会話帳、ピクトグラム、多言語共通飲食メニューやチェックイン時案内表等の観光事業者が活用できる多言語ツールの拡充と普及 観光施設等におけるスロープ、多目的トイレ等の情報発信強化 			
関係機関事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①多言語ツールの導入、利用促進	→		
	②観光施設等におけるスロープ等の設置	→		
	③キャッシュレス決済の導入促進	→		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ①各観光施設窓口等における多言語ツールの設置数【目標(4)】 ②各観光施設のスロープ、多目的トイレの整備割合【目標(4)】 ③各観光施設等におけるキャッシュレス決済導入割合【目標(4)】 			


施策3-3

施策名	行政並びに民間による自然環境や景観の保全並びに改善・再生			
現状	行政ができる景観の保全だけでなく、行政ができない民間による環境保全並びに改善や再生も求められている。			
事業内容と目的	都市計画や景観形成事業との連携による景観美化活動への観光行政の参画			
関係機関事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①歴史的風致の保全	→		
指標				



施策3-4

施策名	市民及び学校教育における観光産業に関する学習の推進を通じた、観光への興味関心の醸成			17 <small>パートナーシップで目標を達成しよう</small> 
現状	将来への観光産業の継続を見据えた教育へのアプローチが必要			
事業内容と目的	中高生の職場体験の受け入れ、市内小中学生の社会学習への参画			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①職場体験の受け入れ	→		
	②社会学習への参画	→		
指 標	①職場体験の受け入れ数【目標(4)】 ②社会学習への参画数【目標(4)】			

施策3-5

施策名	災害時の観光客に対する避難誘導サイン及びハザードマップの作成及び周知			11 <small>市民連携で防災を推進しよう</small> 
現状	自然災害等発生時の観光客への対応求められている。			
事業内容と目的	中心市街地やイベント実施場所周辺への自然災害時の避難ルートの策定及び避難指示体制の構築			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①観光施設からの避難ルートの策定	→		
	②避難ルート表示サインの作成	→		
	③防災アプリの導入推進	→		
指 標	①避難ルートの作成【目標(4)】 ②避難ルート表示サインの設置数【目標(4)】 ③各観光施設における防災アプリの案内表示割合【目標(4)】			

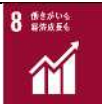
施策3-6

<p>施策名</p>	<p>観光事業者をはじめ、市民全体のホスピタリティスキルや情報伝達力の育成を通じた、地域の魅力伝達力の向上</p>			<p>17 <small>パートナーシップで 目標を達成しよう</small></p> 
<p>現状</p>	<p>観光客と直に接する事業者や市民のホスピタリティスキルの向上が必要</p>			
<p>事業内容と目的</p>	<p>・おもてなし講座の実施によるホスピタリティスキルの向上</p>			
<p>関係機関 事業者</p>	<p>臼杵市、(一社)臼杵市観光協会</p>			
<p>実施年度</p>	<p>令和6年度</p>	<p>令和7年度</p>	<p>令和8年度</p>	
<p>事業計画</p>	<p>①おもてなし講座の実施</p>			
<p>指 標</p>	<p>①講座実施回数及び参加者数【目標(4)】</p>			


4 観光産業活性化戦略

観光産業の担い手確保や生産性向上、関連産業との連携等により、観光産業を働く場として持続可能で魅力あるものとする。


施策4-1

施策名	多様な人材が、様々な就労形態で観光産業に寄与できる働きかたの推進			
現状	主職業をもちつつ副業で観光産業（例えば、観光ガイド）に携わることができるシステムの構築が必要			
事業内容と目的	・観光ガイドの質の向上とガイド数の増加			
関係機関事業者	臼杵市、（一社）臼杵市観光協会、市民			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①観光ガイド数の増加	→		
	②観光ガイド育成講座の実施	→		
指標	①観光ガイド実施者数【目標（4）、（5）】 ②育成講座の実施回数【目標（4）、（5）】			


施策4-2

施策名	まちづくり活動と観光振興活動との連携強化			
現状	観光活性化に資する取り組みに市民が積極的に関与・協力できる環境づくりが必要			
事業内容と目的	・市民向けITリテラシー研修の実施 ・ICTを活用した情報収集・発信に係る人材の雇用と育成方法の検討 ・DMO法人（観光地域づくり法人）の調査・研究			
関係機関事業者	臼杵市、（一社）臼杵市観光協会、市民			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①ITリテラシー研修の実施	→		
	②DMO法人の調査・研究	→		
指標	①ITリテラシー研修の実施数【目標（4）、（6）、（7）】			


施策4-3

施策名	SNS等を活用した、市民による地域魅力発信力の強化			17 <small>パートナーシップで 目標を達成しよう</small> 
現状	臼杵市の魅力・情報発信を行政や関連組織だけでなく、市民も巻き込んで発信できる必要がある			
事業内容と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を活用した住民や観光客による地域の魅力発信方法の強化 ・ イベント実施時や飲食店・宿泊施設口コミサイトなどへの住民・観光客による口コミ掲載キャンペーン実施 			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、市民			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①SNS活用講座の実施	→	→	
	②イベント実施時のSNS活用	→	→	
指 標	①SNS活用講座の実施数【目標(4)、(6)、(7)】 ②イベント等でSNSを活用した数【目標(4)、(6)、(7)】			


施策4-4

施策名	県内の高校生・大学生、インターンシップ生等の観光産業における連携推進			17 <small>パートナーシップで 目標を達成しよう</small> 
現状	多角的な視点からの観光産業に寄与するコンテンツの造成が求められている。			
事業内容と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内学生のインターンシップの受入促進 ・ 研修や視察の積極的な受入促進 ・ 高校や大学の授業による各種産業現場の活用、オリジナルコンテンツの開発 			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社)臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
事業計画	①インターンシップや研修等の受入	→	→	
	②大学等との連携推進	→	→	
指 標	①研修生等の受入数【目標(4)】 ②大学等との連携数【目標(4)】			

施策 4-5

施策名	臼杵市の物産の魅力の情報発信強化による訪問意欲の向上			
現状	臼杵市の物産の魅力についての発信力が弱い			
事業内容と目的	・ 臼杵市の物産の磨き上げ、その魅力発信			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①物産の魅力発信	→		
指 標	①物産の情報発信数【目標 (1)、(2)】			

施策 4-6

施策名	域内観光周遊のための市内宿泊施設の活性化支援及び 体験を絡めた宿泊ツアー開発、並びに宿泊事業への参画促進			
現状	観光周遊並びに域内消費額増加のための宿泊関連施設の強化が求められている			
事業内容と目的	市内宿泊施設の活性化支援			
関係機関 事業者	臼杵市、(一社) 臼杵市観光協会、事業者			
実施年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
事業計画	①支援策の検討・実証	・ 支援事業開始	→	
指 標	①支援事業数【目標 (2)、(3)】			

7 観光振興戦略の目標

本戦略では「数値目標」を設定し、この数値をもとに点検・評価を行い、必要に応じて改善を図りながら目標達成に向けて取り組むこととする。

	基準値 令和4年度 <small>※(6)、(7)は令和元年度数値</small>	目標年度 令和8年度
(1) 一人あたり旅行消費額 (宿泊なし)	4,566円	5,500円
(2) 一人あたり旅行消費額 (宿泊あり)	9,253円	11,500円
(3) 延べ宿泊者数	38,504人	47,000人
(4) 来訪者満足度	6.81	7.50
(5) リピーター率	40.3%	50%
(6) 臼杵市を訪れた観光客数 (観光施設等来場者数) <small>※延べ人数</small>	223,635人	268,000人
(7) 臼杵市を訪れた観光客数 (観光施設等来場者数+市内の主な イベント来場者数) <small>※延べ人数</small>	388,450人	466,000人

※(7)の令和元年度のイベント来場者数は臼杵城址桜まつり、吉四六まつり、赤猫まつり、臼杵祇園まつり、住吉まつり、国宝臼杵石仏火まつり、うすき竹宵、普現寺もみじライトアップ、白馬溪もみじ祭り、国宝臼杵石仏年越しイベントの合計。

8 推進体制と計画の見直し

(推進及びモニタリング体制)

本計画は臼杵市産業観光課を中心に関係各課が連携して事業を推進していくこととする。また、(一社)臼杵市観光協会とは本市の観光振興に取り組む両輪の位置づけで、一体となって推進し、あわせて施策の検証及び目標の達成状況をモニタリングする。

(計画の見直し)

本計画では、計画最終年度の令和7年度に見直しを行うものとするが、情勢の変化により取り組むべき施策に大きな追加・変更が迫られることも想定されることから、年度末ごとに進捗を管理し、柔軟かつ速やかに見直しを行うこととする。